

国語科学習指導案

指導者 わかば級

さくら級

1. 日 時 2009年11月27日(金) 5校時

2. 場 所 プレイルーム

3. 児童数 男3名、女4名 計7名

4. 単元名 「表現しよう」(「劇活動」を通して)

5. 単元について

(1) 単元観

毎年、2学期～3学期にかけて特別支援学級合同で劇活動に取り組んでいる。これまでに「大きなかぶ」「桃太郎」「かきのきマン」に取り組んできた。劇は授業参観で保護者の前で発表したり、交流級の児童を招待して発表会を行ったりして、いろいろな機会に多くの人に見てもらうことで、がんばってやりきった達成感を味わうことができた。

本年度は「てぶくろ」に取り組むこととした。「てぶくろ」は静かな雪原の中での心温まる話であり、淡々としたやりとりではあるが、その会話や動きを通して動物たちの優しさを味わってほしいと思う。児童全員が一つの手袋のなかに入ることができ、楽しく劇遊びに取り組むことのできる題材である。

絵本だけでは興味が持てなかったり、読み取りがむずかしい児童もいるが、劇活動にして動作化することで、言葉の理解が広がったり、その内容を楽しむことができるようになっていく。

劇で役を決める時には、絵本の読み聞かせやパネルシアターだけで自分ではっきりとイメージを持ち、希望する役を発表できる児童もいるし、劇遊びを繰り返す中で役を理解する児童もいる。役を決めてからは、セリフや動きを覚えて一人で演ずることができる児童もいるし、教師に支援されながら動ける児童もいる。劇としてまとまってくる頃には、それぞれの児童に役としての自覚が見られるようになる。また、意欲的な児童は、自分の役だけでなく、友だちの役やセリフも覚えて、友だちが欠席した時に複数の役を演じることもできた。

友だちと関わり合いながら劇の練習をすすめることで「伝え合う力」を養うと共に、劇を発表するという目標を持って、表現する能力と態度を育てることができるようにしていきたいと考えている。また配役ぎめや劇の練習の中で、自分の意思や希望などを話したり、発表したりすることを通してコミュニケーション能力を高め、さらに日常生活においても人とのやりとりが少しでも円滑にできるように育ってほしいと思う。

(2) 児童観

・・・〈省略〉・・・ 実態に差がある子どもたちであるが、一斉指導の中で互いに刺激し合いながら、劇の学習を深めていきたい。

(3) 指導観

①テーマについて

本校研究テーマ 「自分らしさを生かして表現できる子」
－言葉の力をつけさせるための国語指導－
学年テーマ 「ことばの世界を広げよう」

②テーマとの関連について

本校の研究テーマ「自分らしさを生かして表現できる子」の「自分らしさ」は、豊かな経験や体験を通して培われていくと考えられる。本校の特別支援学級に在籍する児童は生活経験が不足していたり、同じ経験を繰り返し行わないと身に付かないなどの実態がある。さらに、文字やことばでの表現が不十分だったり、表現の仕方がわからずに感情をそのまま表出してしまうなどの実態がある。以上のような児童の実態から、まず、語彙を増やすなど表現の基礎の部分を広げていながら「伝え合う力」を育てていく必要があることから、知的級・情緒級の特別支援学級のテーマを“ことばの世界を広げよう”と設定した。

③フィンランドメソッドの活用について

フィンランドメソッドを取り入れた活動としては、知的学級では絵本の読み聞かせの時に次を予想させること、情緒級では「赤いもの集め」などをおこなっている。「なぜ?」「どうして?」という発問に答えるだけの基礎・基本の力が十分身につけているとは言えず、フィンランドメソッドが活用できていない現状である。お話の登場人物やストーリーを理解する手がかりとして、パペットやパネルシアターを利用したり、子どもたちの発言を教師が簡単な「言葉の地図」に整理してみせたりするなどの工夫を行っている。

④指導の工夫について

特別支援学級では、在籍する児童の実態を考慮し、知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の学習指導要領を参考に、教育課程を編成している。特別支援学校小学部学習指導要領の国語科の目標は『日常生活に必要な国語を理解し、伝え合う力を養うと共に、それらを表現する能力と態度を育てる。』である。

絵本や物語を楽しむことは言葉の力を豊かにし、伝え合う力を育てることにつながる。そのために、絵そのものを読み取る、パネルシアターやペープサートで動かしながら読み取る、また、実物を見たり触れたりしながら、言葉の意味をつかむような指導を行ってきた。さらに、動作化やせりふで表現したりすることで、読み取りを確かにしていけるような活動を行っている。

本単元の指導にあたっては、まず、パネルシアターで「てぶくろ」のお話を読み聞かせることから始めたい。その際にただ黙って聞くだけではなく、フィンランドメソッドを活用しながら、次の場面を予想させたり、実際に児童に操作させたりしながら、発想力や表現力の基礎を育てるような指導をしていきたい。

お話の振り返りでは、登場人物の確認やストーリーをより深く理解していくために、全体で簡単な「言葉の地図」づくりを行っていききたい。

「配役」については、どうしても自分中心になりがちな児童がいるが、できるだけみんなで話し合って決めていきたい。やりたい役を自分で考え、自分が希望する役をみんなの前で発表できるか

ということに重点を置き、人前で自分の気持ちをその子なりに表現できるようにしていきたい。

劇を作っていく中で一人ひとりのがんばりを引き出し、みんなでひとつの劇を作り上げる喜びを実感させたいと思う。

6. 単元目標

○自分なりに身体で表現することができる。

○みんなで力を合わせて、劇を作り上げていく楽しさを感じることができる

知的特別支援学校小学部学習指導要領「聞く・話す」の内容

- | |
|---------------------------------------|
| 1段階（1）教師の話の聞いたり、絵本などを読んでもらったりする。 |
| （2）教師などの話し掛けに応じ、表情、身振り、音声や簡単な言葉で表現する。 |
| 2段階（1）教師や友達などの話し言葉に慣れ、簡単な説明や話し掛けがわかる。 |
| （2）見聞きしたことなどを簡単な言葉で話す。 |
| 3段階（1）身近な人の話を聞いて、内容のあらましが分かる。 |
| （2）見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどを教師や友達と話す。 |

7. 単元の評価規準

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	興味を持ってお話を聞いたり、話題からそれないように話し合おうとする。
聞く・話す	お話の内容のあらましが分かる。 自分の意見を言ったり、友だちの意見を最後まで聞いたりする。

8. 単元の指導・評価計画（全30時間）

次	時	ねらい	学習活動	評価規準（方法）
1	1 本時	○「てぶくろ」の話が分かる。	○「てぶくろ」のお話のパネルシアターを見て、登場人物やどんなお話であるかを理解する。	【話・聞】どんな話か理解できる。
2	2	○自分のやりたい役を発表できる。	○配役について自分の考えをみんなの前で発表したり、友だちの意見を聞く。	【話・聞】自分のやりたい役を発表できる。
3	15	○友だちと協力しながら劇の中でのせりふや身体表現を練習する。	○どんな気持ちで台詞を言ったらよいか考え、その気持ちにあった動作をつける。	【関】動作をしながら台詞を言おうとしている。
4	2	○劇の様子をビデオに録画し、演技について話し合う。	○よい所やこうするともっと良くなる等のアドバイスをお互いに言う。	【話・聞】自分の意見を言ったり、友だちの意見を聞いたりしている。
5	6	○衣装や小道具などを使って劇ができる。	○発表を意識して大きな声で演技をする。	【関】衣装、小道具などを使い演技しようとしている。
6	4	○発表する。	○みんなの前で発表する。	【話・聞】はっきりした動作や声で演じることができる。

9. 本時の目標

○お話のパネルシアターを見て、話の流れや登場する動物がわかる。

10. 本時の実現状況を判断する際の具体的な子どもの姿

観点	A	B	C
話す 聞く	○登場する動物やお話の内容、前後関係を理解することができる。	○絵などを手がかりに、お話の内容や登場する動物などを理解することができる。	○話の内容を理解できない。

11. 本時の展開

学習活動と内容	指導上の留意点	評価（方法）
1. 学習の見通しを持たせる。	・ 本時の学習の流れをつかませる。	
2. ウォーミングアップ 絵本「あっちゃんあがつく」の音読をする	・ 児童の名前の文字から食べ物を発想させ、絵本を作っていく。 ・ 発表する中で、自信が持てるようにさせる。	
2. パネルシアターを見る。	・ 「次はどうなるかな」など次の場面を予想させたり、児童に操作させたりしながら、話の内容に興味を持たせ、考えさせるようにして話を進めていく。	【関】興味を持ってお話を聞こうとする。 △児童に操作させたり声かけしたりすることで意欲や興味を持って話を聞けるようにする。
3. 全体で「言葉の地図」にまとめながら、物語を振り返る。	・ 登場した動物を児童に思い出させる。 ・ 児童の発言を教師が「言葉の地図」に記入しながら、登場する動物の大きさや性格などを整理し、内容の理解に役立てるようにする。	【話・聞】登場する動物や話の内容を正しく発表できる。 △パネルシアターの人形などを使い、思い出させる。友だちの発表をしっかりと聞けるように声かけする。